





草鞋後聞

きくだみ

慾望が殆んど到達して残り少くなると、却つてちよつとした事が、心の崩れを作ららしい。

圍爐裡會員に申す

竹内善吾

母校上田蠶絲専門學校が設立されて既に廿六周年、待望の祝典二十五周年の盛典が同窓生、學校當局、上田市民等の協力によつて全く祝福と歡喜と恩恵に...

れるのである。

鳥津、毛利、徳川、伊達等武將の有する平面的な反抗ではないのであつた。利久の娘、吟子を奉公にあげるか、あげないかのわずかな出来事のために表面化した心の戦では、太閤は利久の足元へも立寄れないのを諷つた。

死の座に載つて居た。

近頃上小附近に起きた、よからぬ出来事へ對した、責任ある者の言行は、太閤の利久に對する、心の實力の敗れ、即ち既に成功した英雄型の者の有する、僞豪快味の被綻の一片の現れ、と云ふのかも知れない。

御無沙汰見舞

杜 峯

近頃行衛不明だつた筆を漸く探し出し、たから少し使つて見る。尤も雲隠れ中の筆も外へ向つては相當使はれてゐたやうだから澤山かりにもなつてゐまい。

圍爐裡會員に申す (續)

一、完成期日 昭和十一年十一月末日

- 一、完成期日 昭和十一年十一月末日
二、費用 約十圓
三、方法
1. 寫眞のサイズ カビネ普通型
2. 妻子と共に撮りたるもの
3. 原板を上田支場竹内宛十月月中旬に送附のこと

けるのが肝要だ。この意味が判るか。早川先生は創立以來の恩顧で御功績は茲に喋々を要しない。そして御榮轉であつて學校にとつては實に惜しいとは言へる。

蠶絲界から見れば芽出度いとも言へる。同窓の前途にも多分の光明が與へられるだらう。かういふ先生の多いことは學校に多幸を齎らす所以である。松村君の場合もそうだつた。長野縣では非常に惜しまれたが中央で大いに働いて貰ふことは後輩にとつてまた莫大な力となる、最近の一種清涼劑だ。

松村君で思ひ出したが、先頭學者がどうのさうのといふ論が出て時報上に二、三兩論をきいたがもう一切れになつたのかな。楯の両面でもちらとも軍配は擧げかねるが、然し學生のうちにはウソと勉強させた方がいゝ。卒業してから學問したいと思つても追はれる仕事ばかりで出来なないものだ。殊に工場に入る人は全く出来なくなると言つてよい。して見れば工場にゆく人こそ出来るだけ學問を修めて行つて貰ひたいものだ。







母校ニユース

養蠶職員對製絲職員庭球戰 八月一日 午後三時より母校コートに於て養蠶科職員對製絲科職員の庭球試合を行つた。相方三組宛出場、技師仲仲にて白熱戦を演じ戦績左の如く養蠶側の辛勝する處となつた。

第一回戰 宮坂 茅野 0-2 松浦 萱野 平尾 町田 0-2 鷹野 片岡(綾) 手塚 六川 2-0 片岡(金)山上 第二回戰 手塚 六川 2-0 松浦 茅野 第三回戰 手塚 六川 2-1 鷹野 片岡(綾) 谷中佐屋中兼務を命ぜらる 今回の陸軍の移動に伴ひ縣下各學校の配屬將校の移動が行はれた母校服務配屬將校谷中佐は八月一日附を以て屋代中學兼務を命ぜられたが二校掛持は容易でないとお察し申上げる。

蠶一の養蠶實習 蠶一三三名は山口助教、濱村副手、關副指導の下に八月一日より秋蠶飼育實習を開始三日掃立を行つたが蠶量は一入當二瓦、飼育品種は日一〇支一〇六及其反交雜、日一一支一〇七及其反交雜の四種の人工及黒種である。其地各實驗室の委託飼育が約十二瓦ある。然して廿一日終了したるが收蠶量約七十五貫上々の結果を示した。

自然科學研究獎勵金交付 母校紡織科助教香山清和氏は昭和十一年度文部省自然科學研究獎勵金として八月七日附を以つて金五百圓も交付される事となつたが研究事項は「絹絲紡績法に依る人造絹維紡績に於て製絹及前紡工程の大部分を省略し得る人造絹維を製造する方法」である。

瀧澤もと多氏の御結婚 製絲科に教師として長らく勤務せられてゐた瀧澤もと多氏(舊教十二)は今度良縁を得られ八月十四日附退職され八月十七日出度結婚式を挙げられた。御良人は鹿兒島縣鹿野勤務の農林主事坂場嘉一氏である。將來益々御多幸ならん事を祈る次第である。

岡卓郎氏の榮轉 長野蠶業試験場退職後一時母校養蠶科圃場部に勤務せられし岡卓郎氏(蠶十九)は今度滿鐵蕪城農事試験場に榮轉せらるゝ事となり八月十八日赴任された。然して同氏は十一月會員齋田平三郎氏(蠶一)令嬢清子氏と華燭の典を挙げられ御同伴御赴任と云ふ藉にはる位うらやましき有様にある。

本會記事

八月七日 蠶絲局産繭課外二個所へ二十五周年記念論文集寄贈す。 八月十二日 理事會開催す。 八月十九日 千葉高等園藝戸定會より二十五周年記念事業實施に關する件照會せらる。 八月二十四日 新築金橋先生御逝去被遊弔電を發し哀悼の意を表す。

叙任辭令

母校之部 八月一日 步兵五十聯隊附 谷 弘 屋代中學上田蠶絲專門學校服務 八月十四日 製絲教師 瀧澤もと多 願ニ依り副手ヲ免ス 願ニ依り副手ヲ免ス 願ニ依り副手ヲ免ス 願ニ依り副手ヲ免ス

本會日誌

八月七日 蠶絲局産繭課外二個所へ二十五周年記念論文集寄贈す。 八月十二日 理事會開催す。 八月十九日 千葉高等園藝戸定會より二十五周年記念事業實施に關する件照會せらる。 八月二十四日 新築金橋先生御逝去被遊弔電を發し哀悼の意を表す。

叙任辭令

地方農林技師 小郡 修二 地方農林技師 原田 兵衛 地方農林技師 丸山 武夫 地方農林技師 丸山 武夫 地方農林技師 丸山 武夫

早川先生記念品贈呈資金募呈

- 金參圓也 梁林 悅 府川 作平 藤見 豊一 依田 信一 藤木 田藤五郎 橋本 景吉 朝倉 昇 藤野 正巳 岡部 彌平 甲斐 邦雄 磯野 真知 有賀 文雄 宮前 邦雄 森 淳太郎 高田 茂重郎 島倉 督造 戸倉 八峯 高田 茂重郎

早川先生記念品贈呈資金募集

拜啓 時下愈御清邁之段奉慶賀候 諸君御承知の如く早川先生は母校創立日尚淺き大正元年九月御就任以來實に二十有餘年の久きに亘り内に於ては母校の爲め將又子弟教養の爲めに全力を傾けて御盡瘁下され、出ては著書に研究發表に或は教化に斯界の爲め裨益せられしご洵に大なるもの有之吾々會員一同感謝に不堪所に御座候 然るに先般郷黨官民の懇望黙し難く推されて産業組合併馬社々長に御榮轉せられ、既に新任地へ御赴任被遊候 就ては此の際先生の御功績を讃え且多年の勞に酬いん爲め資金を募集し記念品を贈呈致し聊か感謝の微意を捧げ度候間左記要項御諒相成御贊同の上御金被成下度此段御依頼勞々得貴意候 敬具

募呈要項

- 一、贈呈品 本年十月末日迄 上田蠶絲專門學校内 蒲生 俊興 宛 便宜上千曲會の振替用紙(農野六貳四叁番)同封致し 置候御利用相成度御一早川先生記念品贈呈資金」なる旨御明記願上候 一、記念品の選定等は發起人に御一任相成度 昭和十一年八月

發起人

- 順香十五 飯島正胤 猪坂直一 萩原清治 永藤 山清和 須田圭二 倉澤美徳 中澤 松村季美 平澤 山口新太郎 山口定次郎 林貞三 中澤勝也

支會通信

半島夏便り

B 生

年に一度は當然巡り来る夏は半島農民否大衆にとつて恐るべき存在でもある。早秋か、洪水か、この二つの中の一つは...

「拾錢位あれば商賈が出来る」之も夏の姿の一つでもある。チゲに一杯の朝鮮瓶瓜を持つて呼びかけて居る者はとにかく...

「夏は朝鮮婦人を美しく感じさせると同時にこの反対も言へる」夏に於ける薄物の美は朝鮮に於てこそ味はへる。薄物の...

「近來の千曲時報を見て不快な事柄が一つある。吾々朝鮮在住者なるが爲めに頭へ響いたのかも知れぬが故權寧九氏(絲一〇)に對する同級生内地の方々の態度...

「延一枚が一家族の褥」之も熱苦に追ひ出された朝鮮大衆の夏の夜の姿である。勿論市街地に於てこの有様は見られぬが...

は思ふが在鮮者にとつては心淋しく感ぜられる。では朝鮮の同胞はどう言ふ事をして居るか...

蒲生教授を金澤に迎へて 八月十七日蒲生教授來澤の報に接し金澤頭博士を迎へ直に持明院の妙蓮池...

蒲生教授 一つ見てもちよつぱり残つた鼻髭と廣い學究的な額がなつかしい。菅原治(蠶一) 益々薄くなる頭髪を...

前田龍雄(蠶七) 縣廳の技師、心臓は眼鏡の度と同じ位強いらしい。酔ふと馬鹿野郎べえを連發して人を煙に巻く。...

北澤延榮(蠶二〇) 若い農林技手、近頃お嬢さんが欲しいさうです。候補者は名乗つて出たり。...

西川梅次郎(絲七) 縣廳の御役人、綠蠶上族をされた頭がP壁に寄生された様なお顔をしてゐますがなかの好い男振りです。

石川縣金澤一中出身、郷土愛の熱意止み難く遂に珠洲組合製絲の現業長に轉任なされた。...

本田圭吉(絲六) 元日本絹織に在職、現在黒田さんの後任として生絲検査所の主任技手、...

昭和一十一年度通會費納入者 小島杉門(蠶八) 勸使原重之助(蠶七) 久保田不二夫(蠶五) 西澤政人(蠶五)...

會費領收 (九月五日) 現 在 昭和一十一年度通會費納入者 小島杉門(蠶八)...

轉居御通知 今般都合により片平町の寓居から左記へ轉居いたしました。北大手町の驛から約一丁東、畑の中...

平澤 勝 上田市北大手町一丁目







お玉杓子は蛙の子なり

社 峯 生

新樂先生が歿せられた。七十七の天壽を全うされて長逝されたのである。先生のお世話になつた同窓に電話で知らせやうとして見れば近くには我々のやうな古い者はたんとあない。想へば古い先生だ。學校創立當時からたしか大正九年頃まで居られた筈だ。あの長髪温顔に必ずカウンを着けて長い袖の下からチョークを挿して教室に入つて来られる姿は今でも懐かしいものに思ふ。お顔の面積は可成り大きくてそれに白樺の髻の所々刺げたりやうな皮府をもつて眼を象のやうに細くしたり河馬のやうに大きくしたり、聲の中から表情たつぷりの講義を聞かして貰つたものだ。漢文と修身とどういふ關係があるか知らないが一時の間漢文を習ひ論語を讀んだものだ。論語が子の曰くで初まるやうに漢文は先づお玉杓子は蛙の子なりと初まつた。毎時間それだから適はぬ。

新樂先生の修身

須田 圭 二

恩師新樂金橋先生は去る八月廿二日、七十七歳の高齡を以て御逝去遊ばされた。誠に恐傷の情に絶えず謹んで哀悼の意を表します。先生からはその昔、三年に亘つて修身と論語と漢文の講義を拜聴した。色々トを作つた理だが、今迄兎も角も保存して置いたノートは新樂先生の講義と外二三冊だけであつた。それ程先生にとつては先生の感化は大きかつた。友人からよくこんな事を聞かされる事がある。「矢張り新樂先生の講義はよかつた。修身はあれで無ければならぬ」と。その通り先生から教を受けた何人も同様に感化を受けた事に違ひない。先生は修身を學校を卒業して實社會に出でからすぐに役立つ事許りで講義のトヒツクを見れば大凡次の如きものであつた。

その當時正門の入口には學生の名札がなつてゐて毎朝毎夕それを裏返すことになつてゐたがそれを怠ると叱られる。時間に来ると先生は鉛筆をなめて「調べる。學校内では口笛を吹いても不可ない。況して忘れちゃあ何んとかなんて歌ふものならさう學生課へ出頭を命ぜられたり、胸のボタン一つ緩んでても注意された。そのくせ先生のカラーはあんまり白くなかつた。先生はお酒が好きで、教室でも酒の話をなればそれこそ消え入るやうな眼をしてキョウと喉を鳴らす。學生は木乃伊の鳴聲だとやつた。論語から生れ出たやうな先生も時代の移りに學校をやめられて東京に住まはれる時が来た。開成中學などで中等學生の教化に晩年を送られたが誰も御承知のやうに息子さんが新しい工學士のバキで母校教授になられた。然し若先生は又大先生とはあまりに時代が離れすぎてゐたとしても言はふかやつぱり學校は數年ならずしてお止めになつた。學校が移り變つてゆくものならそれと全く同一歩調の人達だけが残つてゆくのだらう。然し近頃大分新(進)學者の母校入りを見た。きつとヒツチを上げて呉れるかも知れない。新樂先生の漢文やあないが蛙の子がお玉杓子でなくつて呉れればよいと願つてゐる。

哲學と科學。科學研究の熱心より出づる倫理。陽明學。朱子學。人格の修養。勞務。去歲。撲會と巡遊。現代に力を盡す。禮に厚かれ。作法。人情。金錢。道徳と經濟。商業道徳。先賢長者。下問。結婚。長壽と治癒。死亡。其他。先生の講義は孔、孟の教を継とし、之に西洋思想のよい處を横とし、更に先生の體験を織り雜せて純日本式に作り上げたものと先生は恐察する。その一々の妙句は緒言であると同時に結論であつて少しも言葉に無駄が無かつた。先生の修身の試験には只教はつた通りに暗記して書きさへすればよい點が貰へると云ふ學生間の噂であつたがそれもその筈、先生の講義は全部が結論であつて熟讀、含味に値するものであつたからである。その後先生には講義の内容も大分添削に添削を重ねられ書き換へられた事と思ふが先生等が受けた先生の講義の一端を次に記す事とする。勿論その内には聞き落し、聞き誤り、書き誤りはあるものと御承知下さい。

- 一、人格の意義
二、何人も人格を修養せざるべからず
三、貧富、貴賤、長幼の別なく一切の人間は平等に皆悉く人格あるべきものなるが故に人に如何なる高地位、巡遊に於ても人なる道を行ふには憚る所なく人格を修養するを得べし。
四、人格を修養するは易し
五、己が行かざれば會はならずとして十分前に行く。
六、己が自ら尺度となるに非ざれば人は測られず(自ら尺度となるとは實踐躬行である)
七、眞誠の智徳は勞後より來る事を忘るべからず。
八、己が身分らしい事をする事
九、困難を我が主と思ふ。
十、進むに尺もあり寸もあり、分厘もあり動けばかはる變れば動く(停滯的では不可、進歩的ならざるべからず)。
十一、誤たば速に誤てりと公言して深く之を改む。
十二、事は最後の十五分になる。
十三、善を爲すは樂し、自ら損せばより樂し、人に知られざれば最も樂し。
十四、申譯のかたに言行をしない事。

喜多尾猪門君を憶ふ

荻野 恒

喜多尾猪門君は片倉製絲須坂工場に在職中不幸にして病を得られ本年一月來御郷里上田市大工町の自宅にて療養中病狀漸く重なり、遂に八月二十二日午前十時可憐英才を懷き乍ら忽然不歸の客となられた。

「喜多尾君、どうしたんだ。しつかりしよ。昔の元氣を取戻せよ。」と云ふ。「ウーン有難う……しかし斯うなれば俺も駄目だ……」と、後は淋し氣だつた。「馬鹿な！ 病氣といふ奴は、癒るか、死ぬかの何れただが、其の若きで死んで堪るか。あせらずに氣永く養生さへすれば屹度癒る様に昔年の身體は出てくるんだよ。」君は目を瞑つて黙然として聞いてゐたが、いくら營養分を喰つても吸収が出来ねえんだ。それに衝心性脚氣が末だ癒らねえんだ。と云ひながら、自ら裾を捲つて細い脚を見せたり、痛々しく白布で巻いたか細い腹を覗かしたりして呉れたが、二十貫餘斯く迄瘦せたかと思ふと、私は喉が變に

熱くなつて、君を正視出来なかつた。然し努めて元氣よく四方山の話題を捕へて談笑し、君の健康恢復の一日も早くん事を祈りながら辭去した。思へば君の最後の對面であつたとは、誰が豫期した事であらう。聞けば、君の病狀は其の後一時快方に向ひ死の數週間前、家人の止むるを押し切つて唯一人、太陽燈照射を受けに病院へ歩行の氣力なく、看護婦付添ひで自宅に運ばれたさうである。此の爲め歸宅後は病勢一段と悪化し御不幸を見るの一因となつたと承る。私は八月中旬、簡潔呼の令狀を受け郷里大坂に歸省し、約一週間を大坂で過ごし、上田に戻つたのは二十二日の晩であつた。二十四日午後母校林先生より君の訃を聞いて愕然とした。丁度告別式の當日であつた。早速喜多尾家に馳付け同級生を代表して御一門の方々に御悔みを申上げ、既に供へられし千曲會の香奠と御香花料を御供へした。午後二時告別式は大工町の御自宅を取り行はれ母校千曲會を代表して林先生の御號香あり、柔和會代表依田前範、片倉須坂工場長、内藤先生始め町内の有志數君を偲ぶ人々陸續として延きも切らず、約二時間亘つて温やかに焼香を終つた。午後四時、一部關係者の焼香裡に御一門の人々及び一部關係者の焼香あり、終つて依田前範、依田前進、形辭を讀む者、聴く者一句に涙し一句に聲を呑み潜々として下る涙は拭へども盡きず。嗚呼喜多尾猪門君！ 何故君は逝つた。幾多君の任事は之れからたつたのに何故君は逝つたのだ。藥石効なしとは云へ餘りにも世の無常を感せずには居られぬ。君は職を片倉に得て數年漸く基礎なり……在當時は共に柔道の修業に志し心身の鍛練と人格の陶冶を重ね、技は圓熟して三段に列せられ、銀へし精神と練りし身體は相俟つて愈々社會に裨益せんとする秋、偶々病を得て而も君が職務の責任感の強きと將又銀へし身體に頼る頑張りが禍して病益々重り遂に……云々」形辭終り改めて正面佛壇を仰げば眞新らしい御位牌も淋しく、傍には稽古着を着けたる有りし日の寫眞を飾りあり。會する

者すべて肅然襟を正し、今は無き故人の追憶に涙新たであつた。思はず合掌し君の臨終も知らず、君のお通夜も出来なかりしを心切かに御詫言した。

君が終焉前後の模様を聞くに、其の日は平常の如く病床より起き出て、朝食を摂らうとせられたが急に眩暈がするとかで、朝食を止め、自ら白布にて目を覆ひ静かに仰臥された。傍の家人も之を眺めつゝ折柄の來客と對談して居られた。其の内君の様子がおどろき過ぎて居られた。

と呼ばれたが返事なく、揺り起そうとせられ時は既に不歸の客であつた。従つて遺言一つなく全く文字通り何の苦痛の状もなく眠るが如く長逝された。憶ふに、故人は嚴父喜多尾務人氏の御次男で上田中學を経て喜多尾務人氏に入學し昭和八年業を卒ると同時に片倉製絲武井製絲所に就任せられ、九年四月同社須坂工場に轉じた。生來の責任感の強きに加へ、絶倫なる精力と、卓著せる手腕は間もなく上司の認むる處となり、本年四月には抜擢されて現業長の重任に就く豫定であつたと聞く。

翌二十五日早朝、喜多尾家の菩提寺、松代長明寺に御遺骨を迎へた。埋骨式は御近親者のみで行はれる豫定であつたが、特に乞ふて式に参加した。先づ本堂で導師の讀經裡に一同最後の燒香をした。

健在なりし當時の君の巨軀を憶ひ、今見る眼前方一尺の骨殖、「嗚呼喜多尾君何故死んだ……」と、心に叫びながら撫然として熱涙を呑んだ。やがて遺骨を護つて同寺裏の墓所に下り合葬の下の下に喜多尾累代の墓前の大地にシヤベルを當てた。象山の山麓、静寂の墓地にシヤベルの音のみ切々として胸底を打つた。あふれ落ちる涙を汗に紛らし黙々の裡に一同協力して埋骨覆土を終つた。時に午前十時頃であつた。

悼むべし行年二十六才、喜多尾君、遂に大地に還つた。豊かな氏の天賦も、華やかなりし氏の青春も、たゞ春の夜の夢の如し。謹みて御冥福を祈る。

喜多尾君の靈に捧ぐ 依田 實

會員動靜 (九月五日)

- 川瀬 次郎 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
新樂 金橋 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
青木 針三郎 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
上林 多兵衛 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
桑田 庄七 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
尾野 省三 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
武本 本治 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
岡坂 朋二 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
矢野 宗彦 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
林 四郎 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
鈴木 貞次 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
川中 貞次 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
坂本 勝三 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
西川 文雄 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
有賀 仙郷 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
水谷 仙郷 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
父母 仙郷 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
甲本 正道 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
佐藤 四次 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
左 田武 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
兒玉 來治 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
山下 仙郷 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
杉山 一雄 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
石井 公男 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
鈴木 玄九 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
宮下 幸三 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
東家 明彦 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
藤井 温彦 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
石井 清六 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
喜多尾 英雄 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
橋本 貞雄 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
横内 豊彦 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
神崎 克巳 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
山崎 四郎 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
宮島 幸一 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
和 幸一 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
青木 善次 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
清水 七郎 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
山下 正三 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
北野 三郎 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
木下 とき (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
山田 かね (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
小林 敏子 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
山崎 かつ子 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡
木下 とも江 (現職) 昭和一十一年八月二日死亡

編輯室より

△もう九月と云へば立派に秋になつた譯だが涼しくなる處か却つて暑さが一段と加はつた様に思はれる。毎日、身が刺される様な苦しみで目を送つてゐる。その代り米は豊作らしい。豊年で米が安くなるとすれば我々プロレタリアートは殘暑の激しい位は幾らでも我慢しなければならぬ。

投稿規定

一、内容は不問、平易なる學術研究、會員消息に關する物は特に歡迎。取捨は當方に一任せられたい。編輯の都合に依り全部又は一部來月廻しとなる事がある。

廣告規定

Table with columns: 寸法 (寸法), 期間 (一月, 六月, 一年), 1頁, 1/2頁, 1/4頁, 1/8頁, 1/16頁, 1/25頁. Prices listed in Yen and Gou.

河合 器械品 舖 上田市海野町 電話二七七番 振替長野七八四番

昭和十一年度製造原蠶種 普通蠶種 (春) 廣島縣御調郡奥村綾目八六